

## 26 春闘を共に闘おう！

組合員、サポート組合員のみなさん。

2月8日投開票が行われた、第51回衆議院議員選挙は与党自民党が316議席、日本維新の会が36議席、合わせて3分の2をはるかに超える352議席を占めるという最悪の結果となってしまいました。

しかしこれは有権者の3分の2が与党を支持し、投票した結果ではありません。投票率は56.26%と過去3番目の低さ、実に全有権者の4割以上もの人が投票していません。投票した人の中でも自民党と日本維新の会を合わせた与党の得票率は45.35%。これで75.7%もの議席（半数以下の得票で、4分の3の議席を占める）を獲得してしまう小選挙区制のカラクリです。

この結果、改憲発議、参議院で否決された法案も衆議院で自民党単独でも再可決が可能となり、与党が提案した法律は何でも可決できる状況になってしまいました。

「新たな戦前」がついに現実のものとなりました。

高市政権は、「改憲」を明言し憲法9条の改悪、非核三原則を見直し、核兵器の日本国内への持ち込み、九州・南西諸島のより一層の軍事要塞化と労働基準法の改悪、「デロゲーション(適用除外)」を拡大(詳しくは「拓」142号8ページを参照)し、「労使自治」の名目で労働時間規制の緩和(過労死・過労自殺の多発、労働者の健康破壊)を含む労働基準法の空文化、少数派労働組合の団体交渉権の否定など労働法制の改悪を準備しています。

選挙でダメなら労働運動、市民運動の出番です。

26春闘において、まさに「戦争絶対反対、防衛増税反対、軍事費を削って市民の生活の拡充を！」「物価高騰に見合った大幅賃上げを！」と声を上げなければなりません。

関西合同労働組合はこの労働者・市民の生活、生命の危機と、若者たち(組合員の子ども孫たち)が銃を持たされ実際に戦場に送られ、殺されていくことに対し、身体を張って断固として闘う決意です。

このピンチを関西合同労働組合がここ数年掲げてきた「社会的労働運動」が力を発揮する絶好のチャンスととらえ、市民運動との連帯をますます広げ、組織拡大にも力を入れて行かなければならない時です。組合員、サポート組合員のみなさん！執行部先頭に共に26春闘に立ち上がりましょう！

